

水たまり | 井上明彦・ひらいゆう

MIZUTAMARI INOUE Akihiko, HIRAI Yu

2024年3月27日(水) - 4月13日(土)

pm 12-7 (最終日 ~pm5)

休廊 日・月・火曜



石けりあそび Hopscotch
油彩、キャンバス
460x550 mm 2023

井上明彦・ひらいゆうによる二人展《水たまり》を開催いたします。

「水たまり」という言葉からどんなイメージが浮かぶでしょう？

最初に浮かぶのは地面の窪みにたまった雨水でしょうか？ 窪みのスケールによって、それは池となり湖、そして海になる？ 宇宙から眺めたら海は大きな水たまりに見えるかもしれません。地面の小さな窪みにたまった水も地球の 2/3 を覆う海も、スケールは違うけれど、どちらも重力に関係しています。ふだん意識しない重力の存在を水たまりは見せてくれます。ふだん意識しない(見えていない)ものを見せてくれるという意味では、アートも水たまりと同じようなものかもしれません。

本展のタイトル「水たまり」は、二人の作家の様々なイメージの連鎖から到達したキーワードです。そのキーワードを起点に、絵画、ドローイングなどで本展は構成されます。 +1art

| 展示作品 | 絵画・ドローイング・ミクストメディア
painting, drawing, mixed media



水のゆくえ Whereabouts of water
アクリル、木 ほか
240x302 mm 2021



INOUE Akihiko

井上明彦

ひらいゆう

HIRAI YU



| 作家コメント | 「ソコニ水タマリ、アル」



水のゆくえ Whereabouts of water
墨、色鉛筆、紙
270x190 mm 2022

1990年代半ばより、水、重力、地面、屋根など、人間の生存を基礎づけるものに対して、絵や立体、写真、インスタレーションなど、多様な方法で関わる。1995～2020年京都市立芸術大学美術学部教員(造形計画)。2006～07年文化庁新進芸術家在外研修(パリ)。

近年の個展に、2023年「2と5、偶々」(ギャラリーマロニエ、京都)、2022年「二つの傾斜地で：空堀と竜ヶ迫」(+1art、大阪)、グループ展に、2019年「発酵をよむー藤枝守・井上明彦・稲垣智子ー」(+1art)、2018年「複数形の世界のはじまりに」(東京都美術館)等がある。

子供の遊びに潜む普遍的な人間性をテーマに絵画を、自身の家族の物語をテーマに写真シリーズを制作中。1983年渡欧、ブリュッセルの美術学校でドローイングを学び、ベルリンで写真作品を制作開始。シラキュース、ダブリン、メキシコでアーティスト・イン・レジデンスを経て、2002年以降パリを活動拠点に国内外での個展、グループ展、フェスティバルで主に写真作品を発表。2021年ドローイング集「Vestiaire de l'enfance」出版。2022年写真シリーズ「Sleeping Memory」がPrix Virginiaに入選。IKG国際芸術家フォーラムのメンバー。



赤い靴 Red shoes
油彩、キャンパス
410x550 mm 2023